てくてく東海道 宿場探訪マップ

追分

東海道の名残ある芝生（しばう）村を過ぎたところが追分です。ここは東海道と八王子道の分岐点で、西に進めば保土ヶ谷宿へ、北西へ進めば八王子往還です。

東海道 知って得 瓦版

神奈川宿歴史の道

「神奈川宿歴史の道」は、当時の史跡を生かしつつ、道づくりと景観整備を新たに行い、神奈川宿を訪ね歩くことができる約４ｋｍの歴史の散歩道としたものです。神奈川宿の様子を示す掲面があったり、歩道や街路灯には青海波（せいがいは）のデザインが施されるなどの工夫を随所に見ることができます。
また、歩道に設置された車止めには、浦島伝説にちなんで亀がデザインされており、これをたどりながら楽しく神奈川宿を訪ねることができます。

東海道 現代遊楽帖

19 浅間神社

浅間社（現浅間神社）は、神奈川宿の西隣である芝生（しばう）村の入口に建っています。神社には、「富士の人穴と呼ばれる名所があり、すでに１７世紀中頃の東海道名所記にその名が見えます。

17 関門の碑

開港後、外国人が頻繁に往来するために、各国領事の強い要望で横浜周辺に設けられた、関所である関門です。神奈川宿でも東西の２箇所につくられ、厳しい警護体制がとられました。碑が残されているのは、西側・神奈川台の関門です。

18 江戸時代、この神社は神奈川湾に開ける人々の厚い信仰を受けていました。

神奈川宿の一里塚は日本橋より丁目の塚で、江戸時代にはこの神社のすぐ脇、街道をはさんで両側にありました。

16 三宝寺

幕末・明治初期にかけて住職であった大熊井玉は、歌人として知られ文明開化の新事物を詠ました。

14 本覚寺（アメリカ領事館跡）

開港当時はアメリカ領事館にあてられました。日米修好通商条約でアメリカ公使ハリスとの交渉にあたった全権委員の一人・岩瀬忠震の顔影碑が山門の脇に建てられています。

11 宗興寺

開港当時、アメリカ人宣教師で医者であったヘボン博士が、ここに施療所を開いていました。境内には、未天気井戸と呼ばれる大井戸があります。

幸ヶ谷公園

昔は権現山といわれ、中世の古戦場として知られていました。幕末には神奈川台場築造のために山が削られました。現在は桜の名所として親しまれています。

15 能満寺

鎌倉時代の創立とされています。この地の漁師が、海中から虚空蔵菩薩を拾い上げ、これを祀ったと伝えられています。

2 笠程稲荷神社

笠をかぶった人がこの神社の前を通ると、自然と笠が脱げてお祭りをした そうです。そのため笠脱稲荷と呼ばれるようになりました。その後、「笠脱」を「笠程」に改めたといわれています。

1 長延寺・見附跡（オランダ領事館跡）

昭和３９年に移転するまで、ここに長延寺が建っていました。開港当時、オランダ領事館にあてられました。このあたりは、神奈川宿への江戸からの入口にあたります。現在は公園になっています。

13 高札場の復元

幕府の法度や掟の書かれた札を掲げた場所が高札場です。神奈川宿では滝の川の左岸にありました。資料をもとに復元した当時の高札場を神奈川地区センター前で見ることができます。

12 熊野神社

平安時代に紀伊の熊野権現を招いたといわれる神社。江戸後期には、社殿の脇で神楽が舞われたり、御興がかつがれたりと夜宮祭礼で賑わいました。

10 慶運寺（フランス領事館跡）

浦島伝説ゆかりのものが多数あることから、浦島寺とも呼ばれます。その中には、浦島太郎が竜宮からもたらかったという観音像も含まれています。

9 金龍院

金龍院は、京都醍醐寺三宝院の開祖勝覚僧正により平安末期に創られた古刹です。徳川家康からそ石の朱印を許されました。

4 東光寺

太田道灌の和歌「海山をへだつ東のお国より、放つ光はここもかわらじ」が寺号の由来だと伝えられています。

8 成仏寺

開港当時、「ヘボン式ローマ字」で知られ、日本で最初の和英辞典を刊行したアメリカ人宣教師で医者でもあったヘボン博士の墓があった寺です。本堂の前には美しい庭が広がります。

7 宗興寺 本陣跡

6 甚行寺

開港当時、一時フランス公使館にあてられました。

5 普門寺

開港当時、イギリスの士官宿舎にあてられました。

3 神奈川台場跡

伊予松山藩が勝海舟の技術指導を受け、完成させた開港当時の砲台跡です。現在は周囲が埋め立てられ、陸続きとなっていますが、当時は綾堂のような形で海に突き出ていました。

神奈川宿

東海道

景勝地「袖ケ浦」を臨み、行楽地としても栄えた宿。

昔の東海道は海に沿って延びており、ここ神奈川宿には東海道有数の景勝地として知られる「袖ケ浦」がありました。
また、湊と東海道を持つ交通の要衝として栄え、船人や商人はもちろん、観光で訪れる客も数多く湧き、最盛期には近隣の二倍の人口を抱えたといわれています。
神奈川宿は安政五年（一八五八年）の日米修好通商条約では開港の場としてとりあげられ、日本で最初に各国の領事館が置かれました。
『神奈川宿歴史の道』では、そんな当時の史跡の数多くが楽しめます。

安全・安心な道路利用のために

横浜国道事務所では、現在の国道１・１５号（一部区間を除く）をはじめとした、神奈川県内の主要な国道を管理し、皆さまの安全・安心な道路利用のために道路の維持・修繕などを行っています。

～道路交通安全の確保～

道路パトロールや通報などにより発見、確認された交通の安全確保など道路管理上、緊急的に措置が必要なものについて、応急的に処理（補修）を行っています。

路面のポットホール（穴）の補修状況

緊急通報以外の道路相談は道の相談室へ

「道の相談室」 ホームページアドレス http://www.ktr.mlit.go.jp/honkyoku/road/index

●神奈川県内の国道については、横浜国道事務所のホームページをご覧ください。

発行：国土交通省関東地方整備局 横浜国道事務所
〒221-0855 横浜市神奈川区三ツ沢西町13-2 TEL045-311-2981
H24.3(H31.3 改訂)

川崎宿

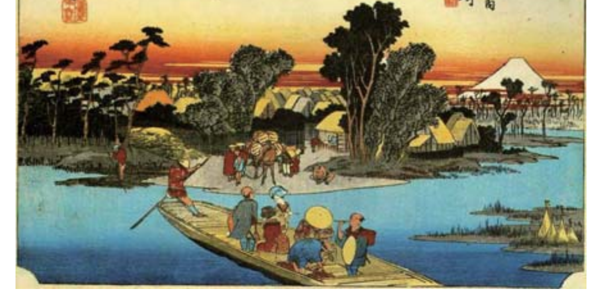
江戸を出て最初の休息地。厄除け大師への分かれ道。

東海道四百年の歩みを踏みしめる

慶長六年（一六〇一年）、徳川家康が東海道に宿駅伝馬制度を定め、街道の整備を始めてから四百年あまりもの歳月が流れました。

慶長九年（一六〇四年）には、江戸日本橋が五街道の起点となり、その後、五街道を中心に一里塚や並木などの施設が次々と整備され、東海道は日本を支える大動脈として、人・物・文化の交流に大きな役割を果たしてきました。

さまざまな歴史を運んだ東海道、この道を歩き、踏みしめ、道が果たしてきた役割、これからの姿を見つめましょう。



川崎宿は、他の宿より遅れて元和九年（一六二三年）につくられました。

開設後は厄除けで知られる川崎大師信仰が広がると共に大いに栄え、旅人はもちろん多くの参拝客の往来で賑わいを見せました。また、幕末には下田から江戸へ向かったアメリカ総領事・ハリスも、ここに宿泊したといわれています。

現在、都市化や第二次大戦の戦火のため、当時の景観はわずか少数の寺院や石造物にその痕跡を残すのみとなっています。

現在の道を守っています

かつての東海道は、現在国道1号や15号として、人の移動や物流を支えています。横浜国道事務所ではこれら神奈川県内の主要な国道（神奈川県内の国道延長の約4割にあたる約258km）を管理しています。道路を安全で快適に使っていただくために、日々の点検やパトロールをはじめ、道路構造物の補修や修繕、清掃作業などを行っています。

道路パトロール

宿場マップについて

東海道には53の宿場が（神奈川県内では9宿）ありました。これらの宿場は旅の宿として繁盛し、現在もその周辺には当時の名残をとどめる史跡や名所が数多く残っています。そこで、このマップでは道中の見どころや自然、行事などを広く網羅して、歩きながら東海道の"むかし"と"いま"が楽しめるように神奈川県内の9宿を5冊に分けて編集しています。

なお、表示していますルートは概ね旧東海道に沿ったウォーキングルートであり、実際の旧東海道とは異なる場合があります。

1 六郷の渡し（ろくごうのわたし）

慶長5年（1600年）、六郷川（多摩川）に六郷大橋がかけられましたが、貞享5年（1688年）に大洪水で流されて以来、明治7年（1874年）まで、渡し舟による渡河が続けられました。明治元年（1868年）、明治天皇の東幸の際には、舟橋を架けました。また、ここは長十郎梨のふるさとといわれています。

2 万年屋跡（まんねんやあと）

奈良茶飯が名物だった往時の河崎万年屋の賑わいは『江戸名所図会』にも描かれています。

3 川崎稲荷社（かわさきいなりしゃ）

社殿の下にはいわれのあるケヤキの大木が眠っているといわれています。昔、ケヤキの大木を切ったところ、ケガ人が相次いだので、そのお祓いのために切り株の上に社殿が建てられたといわれています。享保元年（1716年）、徳川吉宗が八代将軍となるために江戸へ向かう途中、立ち寄りました。

4 田中本陣跡（たなかほんじんあと）

当主の休愚（兵庫）は、六郷川の渡し舟の権利を譲り受け、その渡し賃を得て、傾いていた宿場財政を再建しました。享保6年（1721年）著した『民間省要』は、享保7年（1722年）八代将軍吉宗へ献上され、主張の一部は享保の改革でも取り上げられました。

5 一行寺（いちぎょうじ）

川崎宿の整備が進む頃に開創し、閻魔信仰で大いに賑わいました。

6 宗三寺（そうさんじ）

宿内一の古刹。後北条氏の家臣であった間宮豊前守信盛が中興、その法名から宗三寺と名づけられました。

7 稲毛神社（いなげじんじゃ）

境内には樹齢一千年といわれる大銀杏や小土呂橋遺構、手洗石など川崎宿にまつわるものや、正岡子規、佐藤惣之助の歌碑などがあります。

8 佐藤本陣跡（さとうほんじんあと）

宿内の本陣の一つで、十四代将軍家茂が上京の際、宿泊したといわれています。詩人、佐藤惣之助の生家でもあります。

9 妙遠寺（みょうおんじ）

二ヶ領用水を完成させた小泉次大夫と二ヶ領用水を再興した中興の祖・田中休愚（兵庫）の偉業を称える「泉田二君功徳碑」があります。

10 小土呂橋の親柱（ことろばし）

かつて、東海道と新川堀の交差地点にあった石橋が小土呂橋。現在は暗きょとなっており、地名とこの親柱が残っています。

11 熊野神社（くまのじんじゃ）

徳川家康入国に際し、武運を祈った神社。社殿は赤穂義士ゆかりの宮大工、渡辺喜右衛門及びその子孫により造営されました。境内には江戸時代の俳人加舎白雄と大島蓼太が、鶴見橋を詠んだ句碑があります。

12 専念寺（せんねんじ）

紫式部の念持仏と伝えられる「市場観音」が奉られています。富士山から飛んできたといわれる「夜光石」「お乳石」でも有名です。

13 市場一里塚（いちばいちりづか）

日本橋から5番目のもの。一里塚は街道をはさんだ両側にありますが、ここは南側の塚だけが残されています。

14 鶴見橋関門旧跡（つるみばしかんもんきゅうせき）

安政6年（1859年）の横浜開港後、外国人に危害を加えることを防ぐため横浜への主要道路筋に設けられた関門の一つで、万延元年（1860年）に設けられました。

15 鶴見神社（つるみじんじゃ）

推古天皇時代の創建と伝えられ、昔は杉山大明神とも呼ばれていました。毎年、4月29日に民俗芸能「鶴見の田祭り」が行われます。

16 總持寺（そうじじ）

曹洞宗の大本山。明治44年（1911年）に石川県の能登から移転しました。広くてなだらかな敷地内には20以上の建造物が立ち並ぶ大伽藍があり、散策にも最適。大スター・石原裕次郎の墓もあります。

17 東福寺（とうふくじ）

子育て観音として、著名な寺です。寺の一角に、芭蕉の句碑も残されています。

東海道現代遊楽帖

芭蕉句碑とポケットパーク（ばしょうくひ）

元禄7年（1694年）、江戸の庵を発ち、郷里の伊賀へ帰る途中、同道してきた門弟たちと別れる際に詠んだ句が書かれています。現在、句碑の近くには平成17年に完成したポケットパークがあります。江戸の門人たちによる惜別の句や絵図（東海道分間延絵図）などの紹介をしています。

キリン横浜ビアビレッジ

ビールの歴史から製造過程まで、楽しく学べます。またここでしか飲めないオリジナルビールがあり、レストランや緑地庭園で休憩できます。

東海道知っ得瓦版

鶴見のよねまんじゅう

「六郷渡れば川崎の万年屋、鶴と亀とのよねまんじゅう」と歌にも歌われている鶴見の「よねまんじゅう」は小麦粉ではなく米の皮で塩餡を包むのが新しく、人気を集めました。「よねまんじゅう」は現在、再現され販売されています。

宿場の施設とその役割紹介

【見附】 宿場の門の役目で上方見附と江戸方見附があり、その間を「宿内」といいます。

【本陣と脇本陣】 公家、大名、幕府の公用の役人だけが宿泊することができました。本陣に泊まりきれない場合は、脇本陣が使用されました。

【旅籠】 一般の旅行者などが宿泊しました。

【茶屋】 旅人の休息のためのお店です。

【問屋場】 公用旅行者の荷物の運搬や飛脚の業務を取り扱うところです。※"といやば""とんやば"と宿場によって読み方が異なる場合があります。

【高札場】 幕府の掟やお触れを張り出すところで、人馬の代金も掲示されていました。

【一里塚】 街道の両側に行程の目安として、一里ごとに小高く盛り土をして、目印の木が植えられていました。

生麦事件とは…

文久2年（1862年）、江戸から京都へ向かう途中だった薩摩藩の島津久光の行列が生麦村に差し掛かった際、横浜在住のイギリス人4人が行列の前方を乗馬したまま横切りました。これに怒った一部藩士がイギリス人に斬りかかったという事件です。

この事件は、イギリスと日本の国際問題に発展し、翌年の薩英戦争勃発の原因となりました。明治16年（1883年）、鶴見の黒川荘三がリチャードソンの死を悼み、事件の風化を防ぐために、私費を投じて生麦事件碑を建立しました。

生麦事件碑

川崎のイベント情報

- ●かなまら祭（4月第1日曜日）
- ●かわさき舞祭（4月下旬）
- ●かわさき大師サマーフェスタ（7月第3月曜日・海の日）
- ●川崎稲毛神社例大祭（山王祭）（8月初旬）
- ●かわさき阿波おどり（10月第1土曜日）
- ●いいじゃんかわさき（10月中旬）
- ●カワサキハロウィン（10月下旬）
- ●かわさき市民祭り（11月初旬）

※開催日時等は都合により変わる場合もありますので、主催者または市区へご確認ください。

地図の凡例

旧東海道 / 宿内 / 一般国道 / 主要地方道 / 県道 / 有料道路 / 3 名所・史跡 / トイレ / 公園 / P 駐車場 / その他のポイント / 東海道現代遊楽帖 / 観光案内所